

日本文学研究ジャーナル

Academic Journal of Japanese Literature

特集 中世説話の環境・時代と思潮 (編集／荒木 浩・小林直樹)

2019年6月
第10号
目次

巻頭エッセイ

西安の玄奘三蔵学会に想う
—二〇一八年・学会とところどころ—

小峯和明……………2

見えない仏 — 仏像の靈験を語る話型 —

本井牧子……………8

源隆国晩年の対外觀と仏教

— 宇治一切経蔵というトポスをめぐって —

荒木 浩……………17

熊谷物領家と直実説話の継承

大塚紀弘……………31

愛に寄り添う説話 — 鴨長明『菴心集』と中世唱導の交叉 —

猪瀬千尋……………45

無住と『老子』

曹 景恵……………56

『沙石集』と『宗鏡録』

小林直樹……………69

無住に於ける説話の言語

— 『沙石集』の和歌陀羅尼説をめぐって —

高尾祐太……………83

中世禅林の片岡山飢人説話 — 達磨寺・太子旧跡・虎関師鍊 —

芳澤 元……………97

『吉野拾遺』行継通世譚の展開と変容

森田貴之……………111

大福寺所蔵「瑞夢記」について

辻 浩和……………128

連載

日々は探索〜古筆切・写本・たまに版本〜第九回
『観古帖 書画部』— 古筆の摸刻資料その二 —

久保木秀夫……………145